

## ほんわか食堂 報告書

岸田彩里

開催日：2021/02/20

開催内容：フードパントリー

開催時間：11時～14時（ボランティアは8時 or 9時～15時）

参加数：65 軒程度

配布物：お米・サンマ缶詰・レトルトカレー・そば・シーチキン・お惣菜・餅米・餅・のり・鶏肉・お菓子・エナジードリンク・おくすりのめたかな・こだんご・チョコホイップ・ドレッシング・タマネギ・ネギ・にんじん・トマト・ジャガイモ・白菜・キャベツ・キノコ・ブロッコリー・りんご・みかん・お弁当・お菓子  
お弁当の中身：煮物・漬物・豆の甘煮・照り焼き・スパゲッティ・キャベツ・プチトマト・ブロッコリー・パイナップル・にんじん・白米（図1）



図1：配布されたお弁当

### \* 準備

開催前の準備では主に食料を次々袋詰めにしていくという作業をした。今回は、野菜（図2）、お菓子（図3）、食材（図4）という3つの袋に分けていき、65袋ずつ作った。65個未満の数の食材も多く均等に入れることができなかったが、野菜を半分にするなどして調節をし、それでも均等に分けられない場合はその分他のものを多く入れるなどして、できるだけ平等になるように工夫されていた。袋詰め役割は20人ほどいたため全体的に効率が良く、予定時間より30分ほど前に終わらせることができた。



図2：配布した野菜類



図3：配布したお菓子



図4：配布した食品

### \* 開催時

11時からフードパントリーが参加したが、時間予約制でそれほど混雑にはならず、風

通しの良い場所で行われた。それに加えて参加者全員の検温や任意の消毒、そして配布物の配達も行われ、感染対策が徹底されているなど感じた。

効率の良い配布を行うため、事前に配布物をセットにして並べておき、参加者が来たらそこから渡していくという方式を採っていた（図4）



図4：事前に用意された配布物

筆者は何度かほんわか食堂のフードパントリーに参加させて頂いており、その全ての役割が参加者にお菓子を配る駄菓子コーナーであった。しかし今回は、駄菓子コーナーが参加者に直接お菓子選んでもらう方法を採用していたため、お菓子を通した間接的な接触を懸念したことや選ぶ際に密になりかねず、滞在時間を無くすために駄菓子コーナーが中止されていた。そういった変更があり、今回は初めて食材を配布するフードパントリーの主の部分となる役割をさせて頂き、様々な大人の方とお話する中で、共通しているなど感じたのは笑顔であった。渡す・もらうという関係性ではあるが、食材を通してお互いが笑顔になれるいい活動であると改めて感じる事ができた。フードパントリーの途中で寄付をして下さった方ももれなく笑顔で、1つの活動がこんなにも多くの笑顔を作っていると考えると、食材の配布だけではない特別な何かを感じた。

人数のピークは12時頃だったが、それでも5分に1組来るかどうかというほどで特別忙しいと感じることもなかった。13時頃になるとだいぶ落ち着き、1時間で5組ほど配布し、フードパントリーは終了した。

#### \* 反省会

今回も反省会では様々な意見や感想が飛び交ったため、以下でそれらを紹介していくこととする。

- ・今後もやり方を工夫して継続していきたい
- ・パントリーは子ども食堂とは違い、確実に1対1で会話することができる。パントリーを始めて1年ほど経つが、1年も経つと子ども達の成長も感じられて感慨深いものがある。
- ・1対1の会話は信頼を得ることができるなど改めて感じた

- ・パントリーをきっかけとして様々な人と関わりを持つことができたし、現状のインタビューや相談も聞くことができ、とても助かっている
- ・1年前と比べて参加者が明るくなった気がする。コロナにもだいぶ慣れて、安心してきたのかな～
- ・大きい事件もなく、ここまでパントリーを続けることができて良かった
- ・参加者の中には人と話すことが苦手な人もいるが、パントリーを通して人と話す練習になるかもしれない。あとは人と繋がることのできる良い機会だなと感じた
- ・今後も生活困窮者の生きるお手伝いができればいいなと思う
- ・ある参加者の方がお世話になっている分、お手伝いがしたいとのことだった。できることならお手伝いをさせてあげて欲しい

以上の点に加えて、今回から参加しなくて良くなったという方からの伝言も読まれた。内容は、『いつもお世話になっています。今回は大丈夫です。アルバイトを始めて大分楽になりました。本当にありがとうございました。』というもので、代表者の松土さんは「この言葉を聞いて本当に嬉しかったし、やってきて良かったなと感じた。今後も少しでも多くの困っている人を助けたい。」と笑顔で話していた。

筆者もこういった意味のある活動に少しでも携わり、誰かの役に立つ手助けをしたいと改めて思った。

## ほんわか食堂 活動報告

岸田彩里

- ・活動日：2020.11.18
- ・開催内容：フードパントリー
- ・開催日時：ボランティアは8時または9時～  
10時台、12時台、13時台に分け配布  
(感染対策のため)

- ・参加人数：

お弁当配布数→230食(宅配は60食)

ボランティア→約24人(中京大生10人、愛知大生3人)

- ・配布内容

【企業からの寄付】

お米、炊き込みご飯の素、サンマ缶詰、カルピス、レトルトカレー、カップヌードル、はんぺん、水、災害用缶詰パン、ナポリタン、ポテトサラダ、そば、クラッカー、ジュース、そば、冷凍パイ、ロングライフパン、シーチキン、ゼリー、パンダ飴  
→パロー、フードバンク愛知、内海産業、丸小青果、グリップ、名東ロータリークラブRCC、

愛知県共同募金会、新潟のお米農家の方、神戸物産、中京テレビ、マルト水谷、個人の方

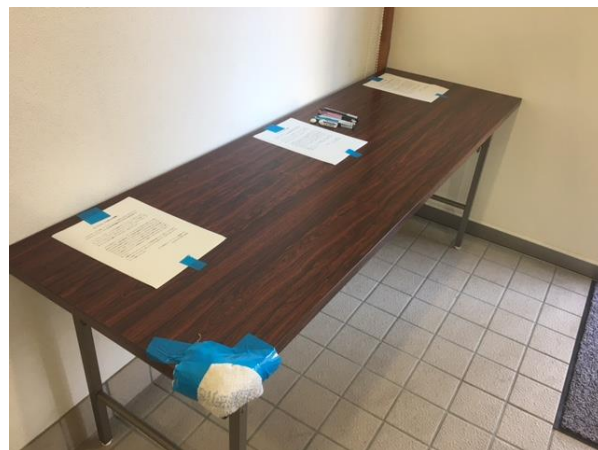
【ほんわか食堂さんが購入したもの】

レトルトカレー

- ・コロナ対策：検温、手洗い、消毒

【準備(9時から)】

まず、炊き込みご飯作りのお手伝いをした。炊き込みご飯作りでは、炊いたご飯は釜の内側に火が通っていない、1台の炊飯器が故障するなどトラブル続きであった。しかし、火が通っていないご飯は電子レンジで作り直し、予定より少ないものの壊れていない炊飯器で何度も炊くなどの様々な工夫がなされた。



サンクスカード記入会場

次に、お菓子コーナーのレイアウト作りを担当した。当日は比較的気温が低く、風も強かったため普段は外で行っているお菓子の配布を建物の中に変更し、この変更は受付場所にも適用された。

#### 【配布（10時45分から）】

配布の流れとしては、まず受付で名簿を確認、そして事前に用意した食品類やお弁当を配布した後、お菓子コーナーで好きなだけお菓子を選んでもらうといったものだった。私はお菓子コーナーでのお菓子の配布、そしてサンクスカード協力をお願いをした。お菓子はもちろん、サンクスカードのお願いを快く受けて下さる方が多くいて、ありがたいなと思った。



お菓子コーナーの様子

家族全員分のお弁当や配布物を1人で取りに来る方が多かったためか、主に子ども達を対象としたお菓子コーナーへ足を運んでくれる人はほとんどいなかった。

全体的な印象としては、前回参加したフードパントリーより比較的落ち着いた雰囲気であった。このことについては、先述したように数人分の配布物を1人、もしくは少人数で持ち帰る人が多かった点、そして参加者の内65人は宅配での受け取りを選択していた点が原因と考えられる。実際に足を運ぶ人が少ないことは、コロナウイルス感染予防としては良い点であると言えるが、普段の子ども食堂の賑わいと比べてみると大きな差があり、複雑な気持ちになった一日であった。



配布されたお弁当

【反省会（15時から）】

当日の反省会で出た意見・感想は以下のようなものであった。

- ・寒かったので倉庫（受付会場として用いられた）でやってよかった
- ・（社会福祉協議会の方）4世帯だけピックアップし、今回このパントリーを紹介したが、とても喜んでくれた。次も来たいとも言って下さり、紹介して良かったと心から思えた。次はもっと多くの世帯に紹介したい。
- ・お米が全く炊けなかったけど、なんとか美味しいものができて一安心した
- ・将来子どもと接する職業を目指しているので、お菓子コーナーを担当することができてよかった
- ・子ども食堂もパントリーも初めてで緊張したが、良い人ばかりで活動しやすかった
- ・（フードパントリーを始めた理由として）企業は非正規ばかりをクビにする。ひとり親家庭の多くは非正規だから、毎日を一生懸命生きている人がその対象にされてしまう。そういった人達を助けたいと思った
- ・（お菓子コーナーを作った理由として）コロナ禍ではどうしてもフードパントリーしかできない。フードパントリーは主に大人が対象なので、子ども達と交流がなかなかできない。でも、この子ども食堂の目的の一つは子ども達と関わること。少しでも子ども達と関わり、お話ができるようにしたかった

今回はボランティアが初めてだという学生の参加がとても多かったため、いつもの反省会とはまた違った視点で新しいことを学べた。これからは今まで以上に活動の意味をしっかりと理解し、少しでも誰かの手助けになれるような活動をしていきたい。

## ほんわか食堂 活動報告

岸田彩里

- ・ 活動日：2020/09/19
- ・ 開催内容：フードパントリー
- ・ 開催日時：ボランティアは8時または9時～

配布は10時半～

食事提供は11時～

- ・ 参加人数：家庭は40軒程度  
子ども食堂は6軒  
ボランティアは10人程度



受付の様子  
(撮影者：岸田)

- ・ 配布内容

### 【企業からの支援】

お米、炊き込みご飯のもと、キットカット（わさび・マンゴー）、さんま缶詰、エビ天（冷凍）、ソーセージ（冷凍）、チキンライス（冷凍）、カルピス、野菜、果物

→ マルト水谷、丸小青果、グリップ、ロータリークラブ、愛知県共同募金会、新潟のお米、フードバンク愛知、ネスレ、神戸物産、バロー



配布したリンゴ  
(撮影者：岸田)



配布したミカンやマスカット  
(撮影者：岸田)



配布した乾燥味噌汁  
(撮影者：岸田)

【ほんわか食堂さんが購入したもの】

パックご飯、冷凍うどん、そうめん、冷麦、つゆ、レトルトカレー、お子様カレー、レトルトハヤシ、チューペット、など

- ・食事提供：天丼、味噌汁（1人200円）
- ・コロナ対策：検温、手洗い、消毒、食事の際はできるだけ離れる

【準備（9時～）】

料理を担当する人は8時から、それ以外の方は9時から準備が始めた。

私は会場準備を担当し、企業の寄付などで集まった食材を袋に詰める作業をした。この食材は主に生活困窮世帯を中心に配布されるもので、事前に予約をした家庭が受け取ることができるという仕組みであった。大根やカボチャなどの数は配布する人数よりも少なかったため半分に切り、できるだけ多くの食材を多くの人に配布できるようにされ、またトマトなど半分に切れないものは一旦1つずつ袋に詰め、トマトを入れることができなかった袋には代わりにミカンを多めに入れるなど、平等に仕分けをするといった様々な工夫がなされていた。食材の種類は全部で20種類以上あった。

今回から家庭の人数によって配布する食料の数を効率的に調節するため、代表者の名前、配布時間、世帯人数（子どもの人数は括弧書き）が書かれた紙が追加された。その紙を食材が入った袋に貼り、時間順に並べ、作業をより効率的にする工夫もなされた。



効率的に仕分けなどができるよう工夫されたもの  
（撮影者：岸田）



【配布（10時半～）】

配布時間になると、事前に予約をしていた方々が続々と集まった。

私はブルーシートの上でお菓子やカルピスなどを並べ、子ども達に好きなものを好きなだけ取ってもらう（大人の方には事前に袋詰めしておいたお菓子セットを渡す）というお菓子コーナーを担当した。子ども達は「好きなものを好きなだけ」と



袋詰め作業の準備の様子  
(撮影者：岸田)



お菓子コーナー  
(撮影者：岸田)

当した。子ども達は「好きなものを好きなだけ」と

という言葉が嬉しかったようで、その言葉を聞いた途端、笑顔でお菓子を選んでいる姿が印象的だった。子ども達はもちろん、大人の方にもこのお菓子コーナーは好評で「こんなにたくさん、とってもありがたい。大事に食べます。」と笑顔で声をかけて下さる方もいた。

しかしお菓子コーナーは受付近くではあるものの柱で隠れてしまう場所であったため、お菓子コーナーの存在に気づかず、受付を済ませ食材を受け取るとすぐに帰ってしまう人が何人かいた。そんな中、救世主となったのが成先生のお子さん2人で「ここにお菓子ありますよー！」「お菓子ありませんかー！」などと大きな声で告知してくれ、その声に気づいた人がお菓子コーナーへ足を運んでくれるということが度々あった。この2人にはとても感謝している。

フードパントリー自体は10時半から14時頃までであったものの、実際賑わったのは午前中であった。これは事前予約をしていた時間が午前中に集中していたことが原因だと考えられる。そのため13時頃には少しずつ片付けを始め、14時から余った食材などを車に詰める作業を行い、14時半には全ての作業が終了した。

### 【反省会（14時半～）】

ほんわか食堂では毎回、活動が終わった度に反省会が行われる。その中で出た意見・感想・報告は以下のようなものである。

- ・ 人の繋がりを痛感した
- ・ 笑顔がつきなかった
- ・ 子どもは幸せな空間を作ってくれることを改めて感じた
- ・ やはり接点を作るのが難しい
- ・ パントリーを通じて色々な話ができるようになった
- ・ 家から出られなかった子ども（親も）がこのフードパントリーで外に出られるようになった。この経験がきっかけで少しずつではあるが学校に通えるようになったと聞き、とても嬉しかった
- ・ このフードパントリーが始まった頃から来てくれている人が回数を重ねるうちに心を開いてくれ、「お金を払う余裕こそないですが、家族でなにかお手伝いさせてください」と一声もらった→お手伝いをすることでまたフードパントリーに来やすくなるかもしれない
- ・ 人との関わりは学校が全てではないものの、将来的には社会に出ることがどうしても必要になる。その手助けができるような活動をこれからもしていきたい

以上のように、反省点というよりは嬉しかったことやこれからの目標など明るいものが多かった。私自身もこの活動の手助けが少しでもできるように、これからも引き続き参加していきたい。



受付の様子

## ほんわか食堂 in みなと 参加報告

植野航史

参加日：12/21（土）

参加時間：10:00～15:00

開催場所：港区の東築地防災センター

メニュー：唐揚げ、ポテトサラダ、筑前煮、ほうれん草のソテー、味噌汁、フルーツ（りんごとオレンジ）、ケーキ（寄付）、トマトとチーズのサンタ

参加者：子ども 100 人（新規 27 人）、大人 35 人

開催日：第 3 土曜日

参加料：子ども（高校生以下）無料

保護者の方 300 円



会場は港区の東築地防災センターで普段開催されている名南病院の講堂よりも広い場所での開催だった。ボランティアの方は、代表の方や名南病院の調理師さん、職員さんや民生委員の方、学生など 27 名がスタッフとして活動されていた。また今回は、お手伝いを兼ねて見学の方が 15 人ほど参加されていた（高年大学の方や戸田川子どもランドの方、ネットワークの事務局長など）。

食事前は、子ども達へのクリスマスプレゼントのお菓子の詰め合わせ作りやフルーツのカット、会場準備などをお手伝いさせていただいた。お食事が始まってからは、子どもたちとのふれあいやお食事を済まれた方に席を開けて頂くように声掛けをしたり、ケーキの提供を手伝ったりし、お食事後は、片付けや会場の掃除などを手伝わさせていただいた。

フルーツのカット作業では、子どもたちもお手伝いに来てくれて、短時間で楽しい雰囲気で作業をすることができた。また時期がクリスマス前ということで、参加者も多く、多くの子どもたちや親子がお食事をしに来られていた。参加者の中には少年野球やダンスをしているチームの子たちも参加していて、一気に参加者が増えたタイミングがあり、席の確保に苦戦した。急遽、席を増設するなど対応をしたものの、食事を終えた方に席を空けるように声かけをすることは難しく、お食事を待たれる方もいらっしまったため、力不足さを感じた。近くの公園で遊ぶこともできるため、誘導の仕方にも工夫して声掛けをすることができればよかったと反省している。ほんわか食堂は、お食事がバイキングのようにスタッフが取り分けていくスタイルのため、提供が混雑する場面も多々あり、一人一人の好みや量に合わせての調整は、食べ残しの削減や、アレルギー対応などがしやすい。一方で、メニューも多いため、取り分けに時間がかかってしまうことが見られた。提供する品の順番の変更や、事前に量や好みを聞くなどした対応が求められてきそうである。子どもたちとのふれあいでは、サンタの格好になっていたため、子どもたちから声をかけてもらえることも多く、スタッフさんからも「サンタさんと遊んでおいでー」と言っていただいたため、多くの子たちとふれあうことができた。ハンドベルやピアノで演奏できるスペースで子どもたちとふれあう時もあり、何か一曲演奏や芸ができると子どもたちとの距離を縮めやすいのでは



ないかと感じた。

初めて参加するにあたり、幾つか気になる点をスタッフの方にお伺いした。まず、受付で初めて参加される方に名前だけでなく、住所や電話番号を聞いていたため何故聞いているのか気になった。その訳をお聞きしたところ、何かあったときに連絡できるようにや、次回の連絡をチラシで配布しているためだった。連絡に関しては、ほんわか食堂のLINEを新たに始められたそうで、開催日が近くなると連絡が来る仕組みになっており、参加者にとってありがたいと思う。また参加者の多くは近隣の方で、近隣の集合住宅から来られる方が多いそうだ。近隣からきてくれている子を通じて、子ども食堂を必要とする貧困の子や生活に困っている子達などが子ども食堂の存在を知ってもらえることもあると思うので、きっかけになればいいと思う。



## 南区「ほんわか食堂」報告書

岸田彩里

開催地：名南病院講堂(名古屋市南区)

開催日：2019/11/16(土)

開催日時：11時半～14時半頃

参加費：18歳以下無料、保護者の方300円



←「ほんわか食堂」  
入り口のぼり

メニュー：ハヤシライス・オムレツ・肉じゃが・コールスローサラダ・根菜の煮物  
大根もち・野菜たっぷりスープ・フルーツ・お酢のゼリー



↑メニュー内容(ご飯類)



↑メニュー内容  
(フルーツ類)



↑配膳風景

参加人数：子供37名(うち6名は幼稚園児)・大人18名(保護者の方6名、大人のみの参加の方7名、持ち帰りの方5名)・スタッフ16名(うち7名は学生ボランティア)  
⇒合計71名

～参加した上での報告と感想～

今回はこの日に学芸会が行われる小学校があったこともあり子供達の人数は比較的少なかった。よくこの「ほんわか食堂」に来ているという愛知大学の学生ボランティアの方に聞くと、通常80名程の子供達が遊びに来てくれていて、新しく来た子からどんどんご飯を食べてもらい、食べた人から別の部屋に移動するという入れ替わりのことが多いという。確か

に、今回はそのような入れ替わりはなく、来てくれていた子や保護者の方などが全員座れ、食べ終わってもゆっくりしている姿が印象的であったため、今回は人数が本当に少ないんだなあと改めて思った。また、大人の方のみでの参加は普段お断りしているそうだが、今回は特別にそのような方にも来てもらおうということで、「おためしほんわか食堂」が行われていた。今回来られた大人のみでの参加は比較のご年配の方が多く、皆さんで楽しく談笑されていて、とても楽しげな雰囲気であった。「子ども食堂」は子供達だけではなく、大人の方々も楽しめる本当に良い空間だなと改めて思うことが出来た。

14 時頃になると子供達が帰りだし、それに伴い私たちスタッフは机の整頓、お皿集めなどの片付けをし、14 時半頃になると約 30 分間の反省会が始まった。その中で「野菜スープの色が薄いとスープをすくうときに野菜の存在に気づいて拒否する子供達が多かったので、次はペースト状にして野菜を見えなくしよう！」という野菜嫌いの子供達に向けたメニュー作りの反省点とその改善点があり、とても興味深かった。スープの色の薄さで野菜があることを見破ってしまう子供達の鋭さと、それを上手く回避する運営の方々による頭の回転の良さがすごく印象的で「さすが！」としか言いようがなかった。

私がこの「ほんわか食堂」に参加させて頂くのは今回で 2 回目ではあるものの、前回の開催地が今回の開催地と別の場所であったため上手くボランティアが出来るか、少し不安であった。しかし運営の方が何気ない話で和ませてくださったこと、今回の学生ボランティアの 7 割が中京生であったこと、そして何よりも子供達と仲良くなれたことが不安な気持ちを払拭させてくれた。今回の「ほんわか食堂」への参加は前回と同様、「本当に楽しかった！」と思える活動であったため、ぜひ次回も参加させていただきたいと思う。